

重軌馬(じゅうばんば)の歴史と現状

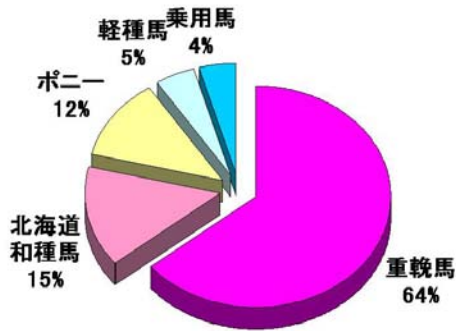
大動物特殊疾病研究センター 石井三都夫

馬の歴史は、紀元前3500年ごろのユーラシア大陸において家畜化が始まり、主に肉・乳用として用いられ、その後使役馬として利用されました。紀元前500年ごろ乗用としての文化が始まり戦争の道具として使用されました。

日本では5~6世紀に大陸から馬文化が伝わったとされています。北海道の重軌馬の歴史は、先住民族に馬産の歴史はなく、15世紀に和人が持ち込んだ南部和種(東北地方)が起源とされます。

開拓時代に使役や農耕を目的にトロッター(アメリカ)やペルシュロン(フランス)などを導入し改良されてきました。現在、日本における重軌馬生産頭数割合は、十勝で全体の27%、釧路・根室を合わせると62%を占めます。また、北海道は世界的にも珍しい重軌馬の特産地であることから、重軌馬の生産技術を北海道(十勝)が世界に向けて発信していかなければなりません。

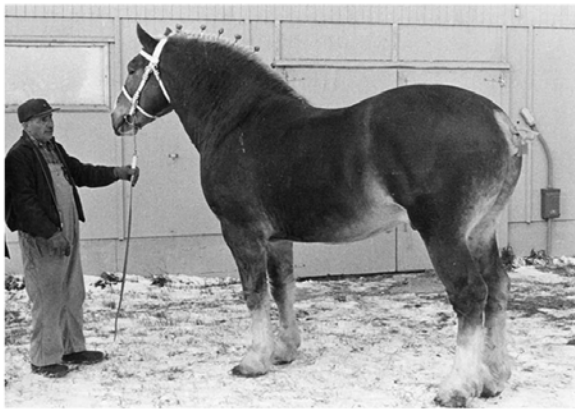
十勝のウマの種類別頭数比



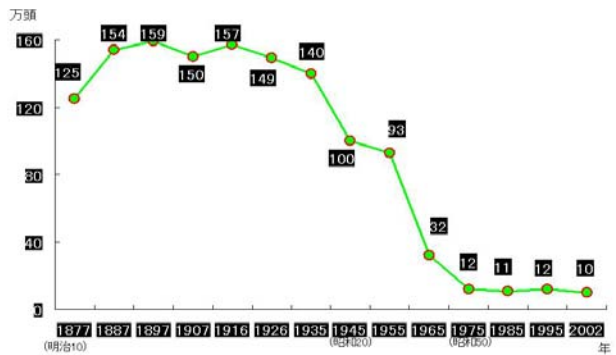
北海道ばんえい競馬 1947年より



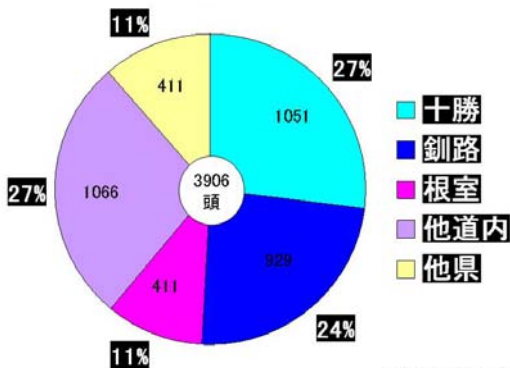
北海道に輸入されたベルジャン種雄馬



日本における馬の頭数

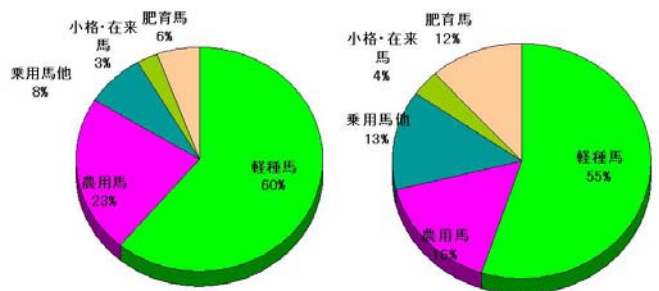


日本における重軌馬の生産頭数割合



日本馬事協会 2002年

日本の馬の種類別頭数比



1992年

2002年

日本馬事協会